

日本の未来を拓くよすが（拠）を求めて
-日本の近代化を導いた人々の思想と行動、その光と影を追う-

日本社会の古層から日本的なるものを発掘した人物
(Part IV 政治・経済分野)

『湛山回想』を読む

講師： **猪木 武徳** 先生

【講演要旨】

1956年12月23日、石橋内閣は全閣僚を総理が兼任して親任式に臨むという異例のスタートを切った。その2か月後、病のため辞意を表明、石橋内閣は総辞職する。戦前、透徹した自由主義思想の言論人として健筆をふるった石橋湛山は、当時の日本を代表する優れた知識人であった。しかし今日ではその進歩主義的な側面のみが強調されることが多い。本講義では『湛山回想』を素材にしつつ、彼の軍隊の見方、普選運動への姿勢、地方自治重視のデモクラシー観、植民地論、中国観などを取り上げる。彼はなぜ戦後公職追放されたのかについても、占領下の政界の複雑さが見え隠れする。その潔い引退を政治家としてどう評価するのか。メディア経営者、思想家、政治家としての石橋湛山の实像に迫ってみたい。

【講師略歴】

1945年生まれ。大阪大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授。専門は、近現代の経済思想・経済史。著書に『経済思想』（岩波書店）、『自由と秩序』（中央公論新社）、『大学の反省』（NTT出版）、『戦後世界経済史—自由と平等の視点から』、『経済学に何ができるか』（中公新書）などがある。

日時： 2017年 **3月14日（火）18:00**～20:30

会場： **公益財団法人国際高等研究所**

参加費： **2,000円**（交流・懇談会費用を含む）

定員： **40名**（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申込： 以下のURLから会員登録をしてお申し込みください

詳細： <http://www.iias.or.jp/communication/Goethe>

しめきり

3月9日（木）

必着

IIAS 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

第45回

満月の夜開く
けいはんな哲学カフェ

ゲーテの会

